

津市の小学校

教諭らが不況で
失職し生活が困

窮している外国人家庭を支
援するグループをつくっ
た。ポルトガル語とスペイ
ン語で希望を意味する「エ
スペランサ」と名付けた。

その由来になったブラジ
ル人児童の話。あるとき教
諭が、母子家庭で苦勞して
いる親子に「希望を失った

波の詩^{うた}

らだめ」と励まを抱いたという。

した。母親に通「子どもたちに希望を」
訳していた児童 という願いを込め、食料な

が、思い出せない単語につ
まずいて止まってしまっ
た。 家庭に配る活動を始めた。
だが集まる善意以上に、支

希望

しばらく考えた末に、よ
うやく出てきた言葉が「エ
スペランサ」だった。「こ
い合わせは、青木幸枝・白
の子にとって『希望』は身
塚小教諭のメールアドレス
近にない言葉になっている
のか」。教諭はそんな思い
jp＝く。(木下大資)

＝ aoki100-esp@memoad